http://www.ccr.kyutech.ac.jp/

国立大学法人
九州工業大学

先端研究・社会連携本部 産学イノベーションセンター

〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町１番１号 コラボ教育支援棟２階

TEL 093-884-3485

E-MAIL office@ccr.kyutech.ac.jp

2023年7月発行

Kyutech Industry–Academia Innovation Center

つなげる力が創る未来

国立大学法人 九州工業大学
産学イノベーションセンター 2023

Kyutech
Kyushu Institute of Technology

ご挨拶

国立大学法人九州工業大学
理事・副学長（研究・社会連携担当）
先端研究・社会連携本部長

中藤 良久
Nakato Yoshihisa

九州工業大学は創設以来、産学連携によって、多くの優れた研究成果を創出してまいりました。

2022年4月に、産学官連携のさらなる発展を目指し、「産学イノベーションセンター」に組織を改編しました。

産業界をはじめとして、国内外の多様な関係者との「対話」や「交わり」によるインタラクティブな関係を通して、産学官連携だけでなく、分野横断的な研究を推進してまいります。

また、本学の「未来を思考するモノづくりとひとづくり」をモットーに、産学官の強力なネットワーク化により、多くの方々が訪問したくなる組織を構築してまいります。

連携を支援する多様なプロフェッショナル人材による受け入れ体制が整備されておりますので、本学との連携に興味のある方は是非一度お尋ねください。

Contents

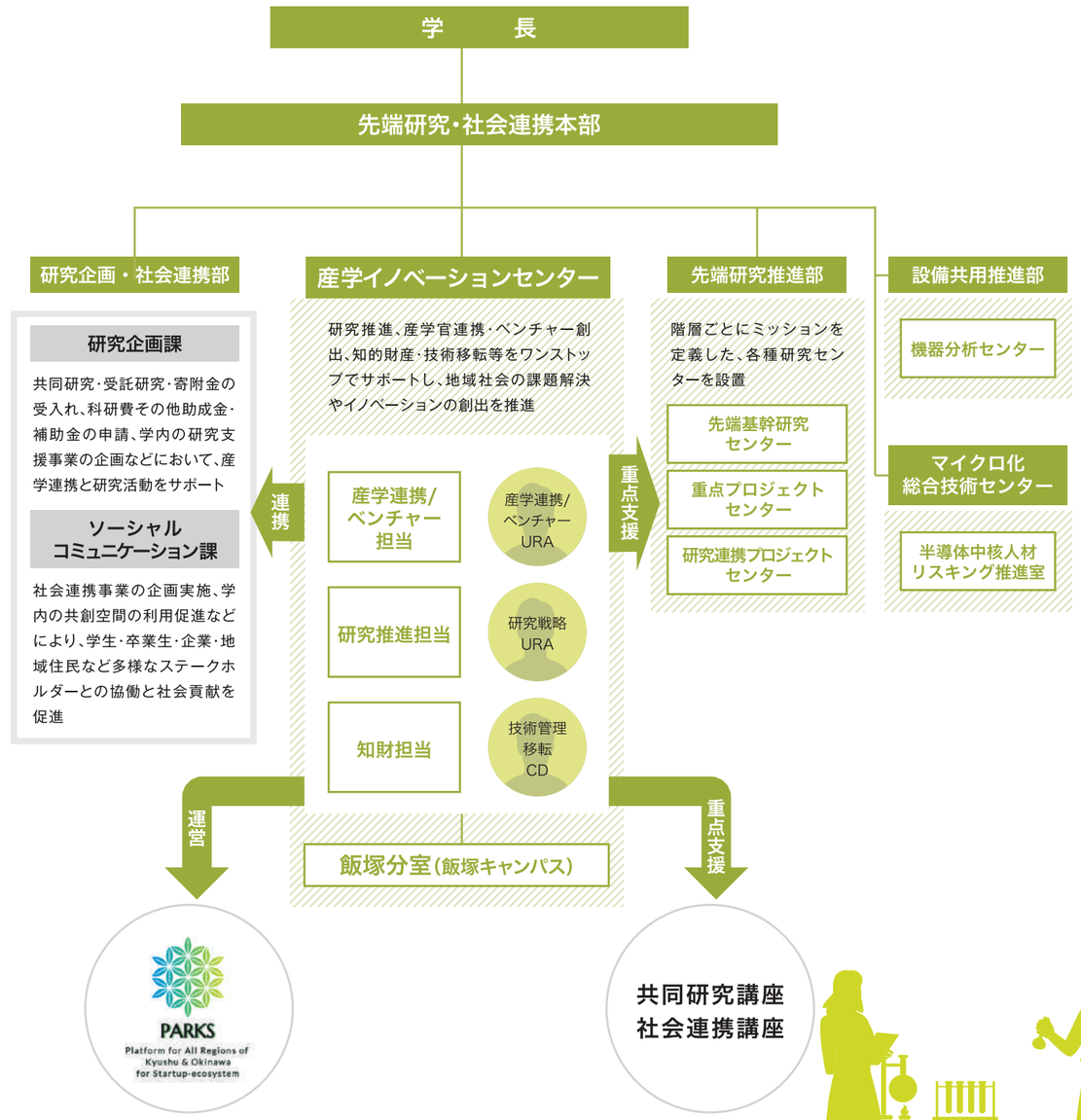
01 組織案内 02
02 スタッフ紹介 03
03 産学連携制度について 05
04 研究・産学連携トピックス 08
05 事業活動報告 11
06 九州工業大学の産学連携実績 19
07 九州工業大学 装置等の利用案内 21

Kyutech Research

01 組織案内

産学イノベーションセンター

産学イノベーションセンターは、学内の研究支援から産学連携までワンストップで対応しています。若手研究者の連携支援、特徴的な研究活動を重点支援し、研究力を組織的に強化するほか、企業等のニーズと大学のシーズのマッチングや産学官金の連携を推進し、学術研究の発展と地域社会や産業界への貢献を目指しています。



02 スタッフ紹介

産学イノベーションセンター

産学イノベーションセンター センター長
中原 信隆

産学イノベーションセンターは、研究推進、産学官連携・ベンチャー創出、知的財産・技術移転等をワンストップでサポートします。具体的には、企業と大学の産学連携活動や、大学が持つシーズ発掘から知的財産権利化・技術移転、さらには大型研究プロジェクトに至るまで、切れ目なくサポートする体制を整えております。技術相談、共同研究、共用設備の活用などを通じ、企業や自治体等との産学官の連携を一層強化し、地域社会の課題解決やイノベーションの創出に取り組んで参ります。

副センター長
特任教授
福本 幸弘

特任教授
（アントレプレナーシップ教育担当）
上條 由紀子

産学連携・ベンチャー担当マネージャー

大庭 英樹

産学連携に向けた支援として、企業等からの技術相談対応をはじめ学術コンサルティング、共同研究、受託研究等を行っています。また、地域の産学官連携の推進に向けた取り組みとして、産業界とのネットワーク組織であるKyuTechコラボを運営しています。さらに、学生や教員の起業相談対応、起業家コンテストの企画や北九州市、金融機関と連携して、大学発ベンチャーの創出支援に取り組んでいます。

主な業務
- 産学官連携事業（セミナー、展示会出展、KyuTechコラボ（産学官連携推進会）の企画・運営
- 企業等からの技術的課題の相談対応
- 企業による本学の人材、研究成果、ノウハウの活用支援（産学連携制度）
- 大学発ベンチャー創出支援
- 学生・教員による大学発ベンチャー創出支援
- 産学イノベーションセンター保有のインキュベーションルームの管理・運営

藤田 勇大
産学連携URA

阿部 巧生
特任准教授
（ベンチャー支援担当）

佐藤 幸則
産学連携CD

長野 勝彦
産学連携CD

研究推進担当マネージャー

藤原 義久

研究者と共に大学が自ら新たな社会的価値を創造できるように、積極的に研究者への支援を行っています。本学の強みである研究シーズを活用し、中長期的な戦略による地域一体的な研究拠点化、研究外部資金の獲得を支援していきます。

主な業務
- 本学の研究活動の調査・分析・評価
- 本学の研究者の研究資金の獲得、研究プロジェクトの企画・立案、業務支援供等

浜崎 武
研究戦略URA

米澤 恵一朗
研究戦略URA

米満 彩
研究戦略URA

渡辺 晃太郎
研究戦略URA

佐藤 梨都子
研究戦略URA

知的財産・技術移転担当マネージャー

荻原 康幸

本学の新たな学術研究成果から、知的財産としての可能性や価値を見出し、知財に係る各法を遵守し権利化を行っています。更に、権利化した知的財産の技術移転にも積極的に関与し、本学シーズの活用を促進しています。

主な業務
- 知的財産の創出・取得・管理・活用に関すること。
- 本学が保有する技術シーズの移転
- 本学の発明審査委員会に関すること。

尾崎 正
知的財産CD

楯 純生
知的財産CD

谷口 澄夫
知的財産CD

飯塚分室 室長

諫山 宗敏

飯塚キャンパスにおける当センター業務を行っています。
キャンパス間で連携し、産学官の取組を推進していきます。

林 浩之
産学連携CD

先端研究推進部

部長 教授
中藤 良久

部局を超えた学内及び学外研究者が結集し、先端研究及びプロジェクト型研究によるイノベーションの創出と将来を担う若手研究者の育成を促進し、本学における研究推進力の一層の向上を図ることを目的として、階層ごとにミッションを定義した研究組織づくりを行いました。

先端基幹研究センター

本学の先端的な研究分野を核として部局の枠を超えた研究者が結集し、戦略的研究の推進や異分野融合など、本学の基幹となる研究領域の開拓、大型外部資金の獲得、イノベーションの創出並びに多くの若手研究者の活躍等を通じて、世界的な研究拠点の形成を目指す研究センター

- 革新的宇宙利用実証ラボラトリー　センター長　北村 健太郎 教授
- 次世代パワーエレクトロニクス研究センター　センター長　安部 征哉 准教授
- 環境エネルギー融合研究センター　センター長　中戸 晃之 教授
- ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター　センター長　田中 啓文 教授
- IoTネットワークイノベーション実証研究センター　センター長　池永 全志 教授

重点プロジェクトセンター

先端基幹研究センターに準ずる特色ある研究の機能強化及び研究拠点の形成を目指す研究センター

- 社会ロボット具現化センター　センター長　石井 和男 教授
- 高信頼知的集積システム研究センター　センター長　黒崎 正行 教授
- ケアXDX（Experience of Digital Transformation）センター　センター長　井上 創造 教授
- 次世代軟磁性材料社会実装推進センター　センター長　本塚 智 准教授

研究連携プロジェクトセンター

組織として外部資金の獲得や学内外の研究組織と連携することで、研究活動を活性化させ、自立性・持続性のある研究体制の確立を目指す研究センター

- 合成生物工学研究センター　センター長　花田 耕介 教授
- イノベーションロボティクスセンター　センター長　西田 祐也 准教授
- グリーンマテリアル研究センター　センター長　安藤 義人 准教授
- データサイエンス・AI研究センター　センター長　齊藤 剛史 教授

設備共用推進部

部長
特任教授
福本 幸弘

設備共用推進部を設置し、本学の研究設備・機器等の集中管理を行い、学内外の研究者に利用していただくことで、産学官連携の推進を図り、本学における教育研究の向上を目指します。

機器分析センター

高性能大型分析機器を共同利用することにより研究及び教育上の利便を図るとともに、分析技術の研究、開発を行ないます。

マイクロ化総合技術センター

センター長
教授
中村 和之

半導体素子と微細加工デバイスの両方を開発可能な施設で、設計から製造・評価まで、一貫した開発が可能な施設です。産学連携・学内共同利用施設として広く多くの方々にご利用いただけます。

半導体中核人材リスキリング推進室

半導体技術者向けに試作実習セミナーを開催しており、全国から年間600名をこえる参加者を集めています。

※2023年7月1日時点

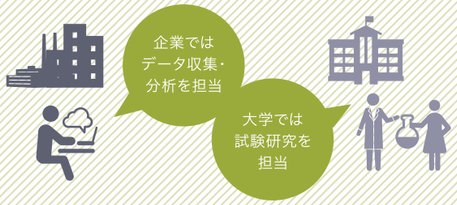
03 産学連携制度について

産学連携制度

企業のさまざまなご要望に対応するため、多様な産学連携制度を整備しています。

共同研究

企業の研究者と本学教員が共通課題について対等の立場で共同して研究を行います。

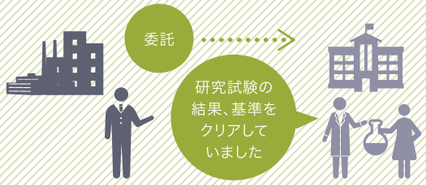


共同研究講座等

企業から資金、研究者を受け入れて、大学内に研究組織を設置します。教員と企業の研究者が対等な立場で研究組織を運営し共同研究を行います。

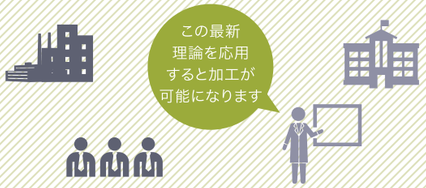
受託研究

企業からの委託によって、本学教員が研究を行います。研究成果を企業に報告させていただきます。



学術コンサルティング

本学教員が、専門知識に基づき、技術面等のコンサルティング˙や講習等を行います。

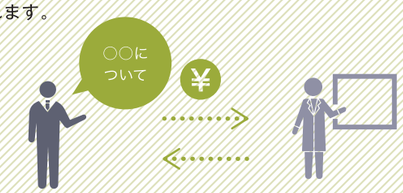


寄附金

企業や個人の篤志家などから学術研究や奨学を目的とした資金を受け入れます。

寄附講座・寄附部門

寄附者が希望する講座や研究部門を設置する制度です。外部から客員教授等を招いて教育研究活動が行われます。



お問合せ先

研究企画課産学連携係

TEL 093-884-3085
ken-sangaku@jimu.kyutech.ac.jp
WEB https://www.kyutech.ac.jp/research/general-counter.html

Information

各種産学連携制度の詳細をご希望の方は右のQRコードからアクセスください

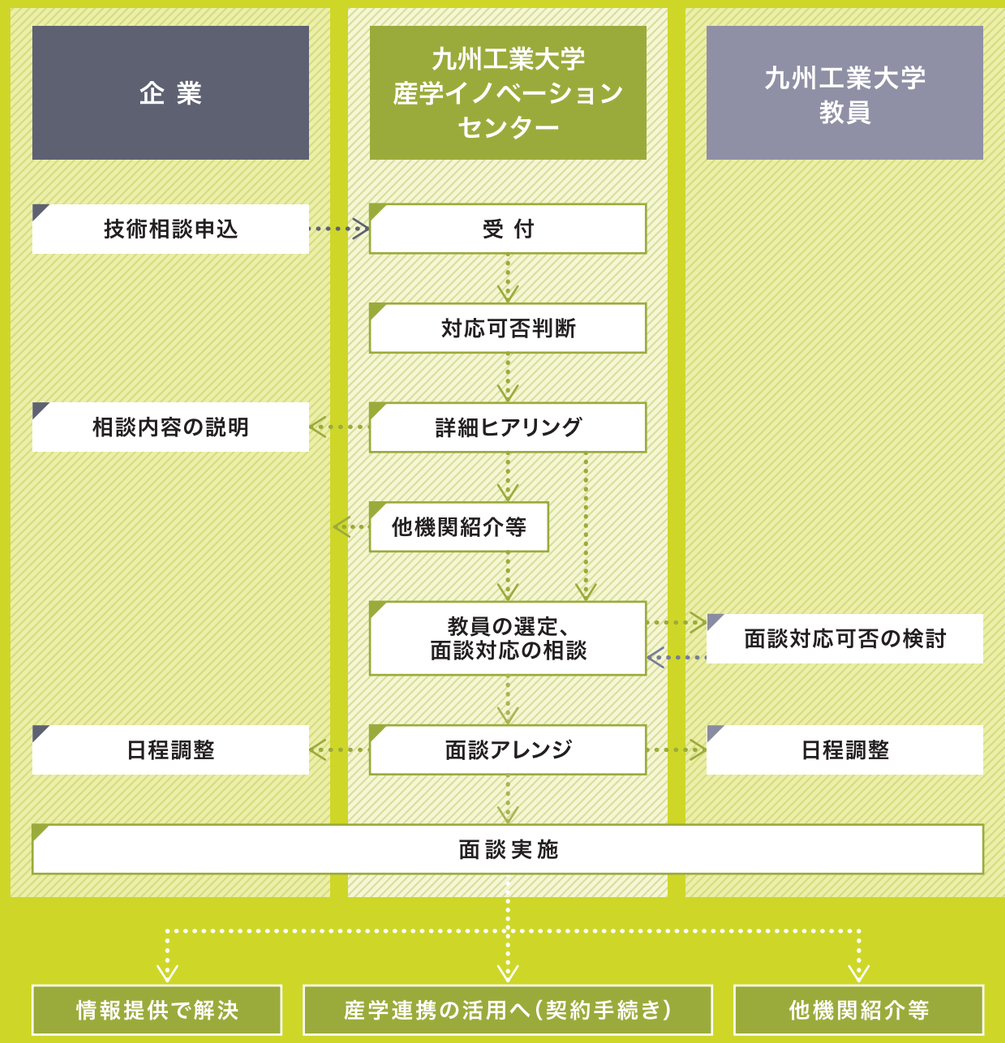
技術相談のご案内

九州工業大学産学イノベーションセンターでは、企業の皆様からの技術相談を随時受付けております（初回無料）。技術相談をご希望の方は以下のサイトから「技術相談依頼フォーム」にご入力ください。

技術相談の受付サイト

https://www.ccr.kyutech.ac.jp/ask/ 右のQRコードからもアクセスできます。

技術相談の流れ



主な産学官連携制度の比較について

	共同研究	共同研究講座	社会連携講座	受託研究	寄附講座
知的財産権	共有可 (※)		大学との協議による	大学に帰属	
学内・学外PR	ー	講座名に企業の名称使用可		ー	講座名に企業の名称使用可
連携する教員(九工大)	企業が希望する教員				大学側が招へいする教員
企業からの派遣	●共同研究員（任意） ●研究料＝月額35,000円	●共同研究講座教員（必須）⇒ 特任（准）教授等の称号付与 ●民間等共同研究員（任意）⇒ 研究料＝月額35,000円	●社会連携講座等教員（必須）⇒ 特任（准）教授等の称号付与 ●共同研究員（任意）	ー	●大学が招へいした教員となった場合は可能
運営／進め方	大学と企業が共同で実施	大学と企業が共同で運営（大学幹部が関与）		大学が実施	大学側が運営
税制上の優遇	●特別試験研究税額控除制度	●増加試験研究費税額控除制度 ●特別試験研究税額控除制度	ー		●全額損金算入可
間接経費等	●直接経費の30%				●共通経費として内数で10%相当
効果	●共同研究員が学位を取得できる可能性	●大学リソースのフル活用 ●学生へのPR効果大 ●企業の研究者を教員ポストで派遣 ●教員同士の連携 ●共同研究員が学位を取得できる可能性		●手軽に研究成果を獲得	●学生へのPR効果大
留意点	●企業も研究に関与します。	●共同研究講座教員は大学が雇用します（人件費相当は研究経費として計上していただきます。また大学の職務規定に基づき勤務いただきます。）	●人材育成等を継続的に行う拠点を設置いただきます。社会連携講座教員は大学が雇用します。（人件費相当は講座経費として計上していただきます。また大学の職務規定に基づき勤務いただきます。）	ー	●寄付のため研究成果は対価ではありません。

(※)協議の上、以下の取扱いから選択できます
①本学と外部機関の貢献率により持分を定めて共有する取扱い
②貢献率によらず持分を定めて両者が共有する又はいずれか一方の当事者が単独で保有する取扱い
③いずれか一方の当事者の持分を他方の当事者に持分譲渡する取扱い

04 研究・産学連携トピックス

共同研究講座・社会連携講座を8講座設置！

2015年に創設した共同研究講座等制度については、次々に講座が開設され、2022年に創設した社会連携講座制度とあわせて2023年6月現在で8講座が運営されています。
今後も共同研究講座・社会連携講座の増加により、さらなる産学連携が期待されます。

共同研究講座等の概要

共同研究が加速	知的財産権の共有	大学の組織的サポート	大学の研究者としての研究活動	学生へのPR効果	派遣研究者のモチベーションアップ
共同研究講座等教員の配置により、研究のスピードアップが図れます。	企業側のメリットも十分配慮し特許等の共同出願を行います。	大学の組織的サポートや学内リソースのフル活用ができます。	本学の様々な知見等へのアクセスが容易となり研究の発展が期待できます。	企業名を冠につけた講座等を設置するため学生へのPR効果が期待できます。	共同研究講座等教員には、特任（准）教授などの役職が付きます。

共同研究講座一覧

講座名称	受入部局	設置期間
SUMCO共同研究講座（㈱SUMCO）	生命体工学研究科	【第1期】2017年7月～2020年6月【第2期】2020年7月～2023年6月
IoTシステム実装研究講座（パナソニック㈱）	工学研究院（電気電子工学研究系）	【第1期】2017年11月～2020年10月【第2期】2020年11月～2024年3月
PLE-TAKADA講座（㈱高田工業所）	生命体工学研究科	【第1期】2018年4月～2021年3月【第2期】2021年4月～2024年3月
上野精機次世代先端技術共同研究講座	生命体工学研究科	2022年4月～2025年3月
GX材料デバイス研究講座(パナソニック インダストリー㈱)	工学研究院（物質工学研究系）	2023年1月～2026年3月

社会連携講座一覧

講座名称	受入部局	設置期間
半導体産業イノベーション推進連携部門	設備共用推進部マイクロ化総合技術センター	2022年4月～2025年3月
Web3 Lab	情報工学研究院(情報・通信工学研究系)	2023年4月～2026年3月
FFG大学発ベンチャー創業支援プログラム	産学イノベーションセンター	2023年6月～2026年3月

※2023年6月現在

Topics

GYMLABO ～交わりの形成拠点へ～

GYMLABO（ジムラボ）は、グローバルな人材、アイデア、シーズなどを有機的に結びつける交わりの形成を目的としたコワーキング・スペースであり、2022年5月に開設しました。

月に述べ2千人以上に利用され、開所から1年間の利用者は延べ2万8千人に上ります。また、学生の利用に限らず、自治体・企業等の主催や連携により行われたイベントは初年度20件に上り、多様な交わりの形成拠点として機能しています。

今後も本学で学ぶ、知を接続し、組み合わせ、さらには世界を見据え、未来を考えることができる若い人材を起点に、社会との多様な共創活動を生み出していきます。

GYMLABOが利用できるKyuTechコラボ会員について ▶▶▶ 詳細はこちら

詳しくは こちら

設備概要

- 会員は8:00～22:00で利用可能(非会員は平日の9:30-18:30)
- 戸畑キャンパス唯一の学外利用者用のWi-Fi環境整備
- 常時60名が利用できるオープンエリア
- 人数に応じた利用可能な会議室
  - ○6名用会議スペース×5　○8名会議スペース×1
  - ○30名用セミナースペース×1　○45名用セミナースペース×1
  - ○企業向けレンタルオフィス×3　○個人スペース×18、Web会議ブース×3
- 利用料金 ： 一般の利用者も500円／日からご利用いただけます。
  KyuTechコラボ会員/非会員によって利用料が異なります。
  詳細は、GYMLABOサイト内の料金表を参照ください。

Check!

令和５年度から、GYMLABO施設内でポスター・チラシ掲出やデジタルサイネージでの企業広告、SNSを活用した学生等への広報が可能な、広告プランが始まりました。ご興味がありましたら、ぜひお問合せください。

お問合せ先　GYMLABO事務室
TEL 093-884-3288
contact@gymlabo.kyutech.jp

KyuTechコラボ（九州工業大学 産学官連携推進会）

KyuTechコラボは、産業等との多様な連携活動を通じて地域の動きを加速させ、地域社会の課題解決やイノベーション創出に貢献するために、2020年度に創設した「九州工業大学 産学官連携推進会」の愛称です。

本会員になっていただくことで、昨年５月にOPENしたGYMLABOを活用した学生との交流イベントの開催やインターンシップ型アルバイト事業等を活用いただけます。

入会するメリット

GYMLABO
体育館をリノベーションしたコワーキングスペースであるGYMLABOの利用及びGYMLABO受付横に設置中のデジタルサイネージ（ディスプレイ）への広告掲載が可能です！

技術相談サポート
産学連携コーディネーターが個別に対応します。
法人のみ

インターンシップ型アルバイト事業
本学生を対象としたインターンシップ型アルバイト事業に申込いただけます！
法人のみ

特許優先開示
出願直後の特許情報の概要をひと足早くお届けします！

研究会活動支援

産学官連携関連情報配信

入会方法

Step 1
KyuTechコラボHPで入会申込フォームに入力

Step 2
受付確認後、事務局より受付完了のメールを送信同時に、入会完了

Step 3
後日、事務局より年会費に関する請求書を郵送

Step 4
年会費をお振込みいただき、手続き完了

お問合せ先　先端研究・社会連携本部 産学イノベーションセンター
KyuTechコラボ事務局
TEL 093-884-3487
collabo-jimu@ccr.kyutech.ac.jp
WEB https://www.ccr.kyutech.ac.jp/collabo/

KyuTech コラボHP

05 事業活動報告

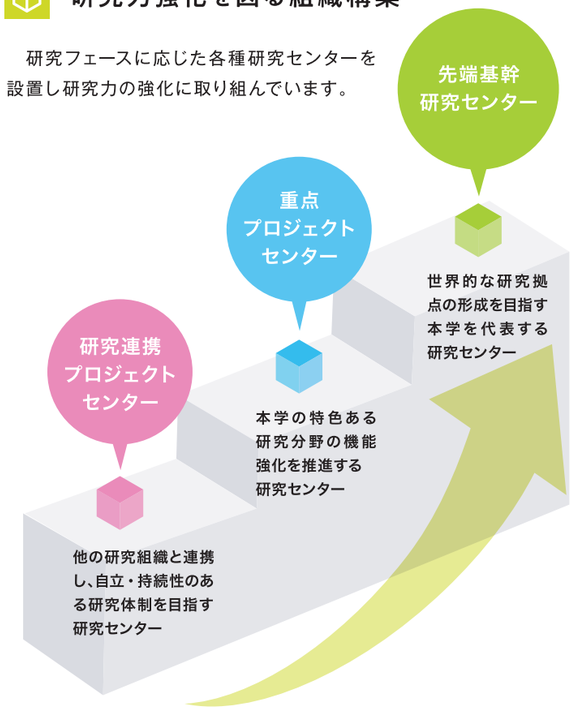
研究支援の取組

先端研究・社会連携本部産学イノベーションセンターでは、若手研究者の学内連携支援や研究組織の開設支援・運営支援、学内研究機関の連携による融合分野等の創出支援、研究資金の獲得支援などを行い、教員の研究領域の深化・拡大、新しい研究分野の開拓などを推進しています。

これらの研究支援活動を通じて、特徴的な研究活動を形成し、学術研究の発展と社会への貢献に取り組んでいます。

研究力強化を図る組織構築

研究フェースに応じた各種研究センターを設置し研究力の強化に取り組んでいます。



先端基幹研究センター
- 革新的宇宙利用実証ラボラトリー
- 次世代パワーエレクトロニクス研究センター
- 環境エネルギー融合研究センター
- ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター
- IoTネットワークイノベーション実証研究センター

重点プロジェクトセンター
- 社会ロボット具現化センター
- 高信頼知的集積システム研究センター
- ケアXDX*センター　*XDX→Experience of Digital Transformation の略
- 次世代軟磁性材料社会実装推進センター

研究連携プロジェクトセンター
- 合成生物工学研究センター
- イノベーションロボティクスセンター
- グリーンマテリアル研究センター
- データサイエンス・AI研究センター

研究者向け研究費申請支援セミナーの開催

産学イノベーションセンターでは、科研費や特別研究員の申請を行う学内の教員及び学生に向けて、制度に関する説明会や申請書作成のノウハウ等のセミナーを開催しています。

JST 事業説明会（2023 年 3 月オンライン開催）

URA による特別研究員申請支援ワークショップ（2023 年 4 月開催）

Support 博士学生支援事業

本学では、博士後期課程学生を対象に「先端研究フェローシップ」および「次世代研究者挑戦的研究プログラム」を実施しています。二つの事業では、経済支援と博士人材の育成コンテンツの提供を通して博士後期課程学生支援に取り組んでいます。

申請資格を有する学生を対象に申請を募り、審査を経て採用学生を決定、最大で3年間支援を継続します。採用学生には研究費が支給され、さらに毎月生活費相当額が学生の口座に振り込まれます。採用期間中は、本学が提供する人材育成コンテンツなどを通して研究力向上に努めていただきます。

九州工業大学博士支援WEBサイト
https://www.ccr.kyutech.ac.jp/dc_support/

先端研究フェローシップ

九州工業大学『先端研究フェローシップ』では若手研究者の養成・確保の推進に、本学の情報・AI・工学分野における優秀な博士後期課程学生を先端研究フェローとして採用し、学生が自由な発想のもと、主体的に研究課題を設定し研究に専念する環境を提供します。

文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」による。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/fellowship/index.htm）

次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）

地球規模課題解決に向けたグローバルエンジニア型博士人材育成プロジェクト

同プロジェクトは、科学の進歩とともに変化する社会に柔軟に対応し、複雑な課題の解決に資する工学系博士人材の育成を目標としています。さらに、海外の優れた大学の研究者と共同して研究に従事する機会を提供することで、将来国際的な活躍が期待できる豊かな経験を持ち合わせた博士後期課程学生を育成します。

JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」による。
（https://www.jst.go.jp/jisedai/）

	先端研究フェローシップ	地球規模課題解決に向けたグローバルエンジニア型博士人材育成プロジェクト
令和5年度採用数	1年次 10名	1年次 7名
学生1人あたりの支給額	210万円／年 （生活費180万円＋研究費30万円） 授業料全額免除	270万円／年 （生活費180万円＋研究費90万円） 留学費用支援
支援期間	課程終了まで（最大3年間、3年の在学期間を越えての支援はなし）	
研究センター推薦 ※1	○	×
国際共同研究指導制度 ※2	×	○
企業・研究機関でのインターンシップ	必須	推奨

※1 学内に設置した分野横断型研究センターがそれぞれ推薦学生の育成に携わる。 ※2 本学教員と海外大学教員が学生の研究指導を共同しておこなう。

Support 大学発ベンチャー支援

教職員・学生の起業活動の支援を行っています!

産学イノベーションセンターでは、起業に関心のある教職員や学生のための起業相談窓口の設置に加え、起業マインドの向上を目的とした起業支援セミナーや九工大起業家コンテストの企画・開催、並びに起業を志す学生のためのプレインキュベーションルームの整備・運営等を通じて、起業に関心がある教職員や学生に対するきめ細かな支援に取り組んでいます。

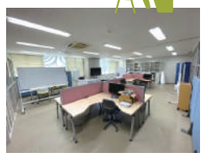
起業を思いついたら、まず一声お声掛けください。

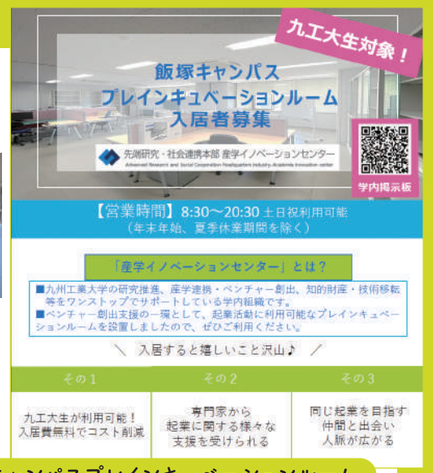
九工大起業家コンテスト2023

（2023年3月3日）

起業支援セミナー

（2023年1月19日）





飯塚キャンパスプレインキュベーションルーム

（2023年6月〜運用開始）

Support 連携協定

九州工業大学ニューロモルフィックAIハードウェア研究センターと宇部高専地域共同テクノセンターが包括連携協定を締結しました

詳細はこちら

2023年3月20日、九州工業大学先端研究・社会連携本部先端研究推進部ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター（センター長:田中啓文、以下「九工大Neumorphセンター」）と、宇部工業高等専門学校地域共同テクノセンター（センター長:碇智徳、以下「宇部高専テクノセンター」）は、「教育・研究・社会連携活動の包括的な連携及び協力体制を構築すること」を目的として「包括連携協定」（以下、「本協定」）を締結しました。

本協定の締結に基づき、以下のことを軸に効果的な連携協力を推進していきます。

01 教員間交流による共同研究の増加

- 研究業績の増加や外部資金獲得
- 研究装置・資料等の無料での相互利用

02 学生の研究力向上 研究に対する意識啓発

- 宇部高専専攻科特別講義への講師派遣
- 共同研究への学生参加
- インターンシップ交流の推進

九州工業大学とSpace BD宇宙の新技術開発の加速を通じて社会と産業発展に貢献することを目指し包括協力協定を締結しました

2022年8月、九州工業大学と宇宙産業における総合的なサービスを展開するSpace BD株式会社は、産学連携による新技術開発の加速を通じて社会と産業発展に貢献することを目的とした包括協力協定を締結しました。

宇宙用製品の開発を通じた宇宙産業の活性化を視野に入れ、九州工業大学とSpace BDは具体的に

1）衛星部品分野への新規参入支援
2）世界をリードする既存・新技術の製品化
3）実践力を持った宇宙人材の教育

について協働していきます。

詳細はこちら

サーキュラーエコノミー×ブロックチェーンをテーマとした社会連携講座「Web3 Lab」を開設しました

2023年4月より、九州工業大学、アミタホールディングス株式会社、株式会社chaintope、株式会社ハウインターナショナルは、サーキュラーエコノミー×ブロックチェーンをテーマとした社会連携講座「Web3 Lab」を開設しました。

世界中の課題を解決し、社会的価値を生み出すことのできる技術と教養を携えたブロックチェーンエンジニアの育成を行います。

Support 2022年度（令和4年度）展示会出展支援実績

NEW環境展2022

@東京ビッグサイト

2022/5/25～27

横野 照尚 教授
（大学院工学研究院物質工学研究系）
「室内光での光触媒技術、及び感染症対策に効果を発揮するDr.OHNO」

脇迫 仁 准教授
（大学院工学研究院電気電子工学研究系）
「ペットボトルキャップのリサイクル品と材質（PP/PE）判定装置」

課題解決expo 2022

@西日本総合展示場新館

2022/7/6～8

安藤 義人 センター長
（グリーンマテリアル研究センター）
未利用植物資源を原料として、セルロースを抽出し工業的に有効利用する研究成果

渕脇 正樹 教授
（大学院情報工学研究院知的システム工学研究系）
目に視えない微細な傷（数十～数百ミクロンの窪み）を工学的手法により瞬時に定量的に検知する技術

国際福祉機器展

@東京ビッグサイト

2022/10/5～7

株式会社マリスcreative design
（九工大発ベンチャー企業）
×
和田親宗研究室
（生命体工学研究科人間知能システム工学専攻）

共同出展：
福祉機器開発最前線ブースにて、歩行アシスト機器「Seeker」の展示と体感イベント

イノベーション・ジャパン2022～大学見本市&ビジネスマッチング～

2022/10/4～31※オンライン開催

国立研究開発法人科学技術振興機構主催の「イノベーション・ジャパン2022」（2022年10月4日～10月31日）に出展しました。2021年度に引き続き、Web上の展示によるOnline開催で開催されました。「カーボンニュートラル」、「ライフサイエンス」、「装置・デバイス」、「情報通信」、「マテリアル・リサイクル」の分野について12件の技術シーズを展示しました。

▲ 詳細はこちらをご覧ください

本学から12名の先生が出展しました

宇佐美 雄生 助教
（大学院生命体工学研究科人間知能システム工学専攻）
「人間の声を聴き分けられる有機分子ネットワーク」（装置・デバイス）

髙嶋 一登 准教授
（大学院生命体工学研究科生体機能応用工学専攻）
「測定範囲や感度が変更可能な力覚センサ」（装置・デバイス）

永岡 健司 准教授
（大学院工学研究院機械知能工学研究系）
「螺旋翼を用いた軸方向波動電波装置」（装置・デバイス）

尾下 真樹 教授
（大学院情報工学研究院知能情報工学研究系）
「CGキャラクタを直感的・対話的に動かすことができる技術」（情報通信）

田向 権 教授
（大学院生命体工学研究科人間知能システム工学専攻）
「エッジのための低学習コストAI」（情報通信）

陸 慧敏 准教授
（大学院工学研究院機械知能工学研究系）
「データ準備作業不要のバラ積み自動車部品組付け認識システムの開発」（情報通信）

竹中 繁織 教授
（大学院工学研究院物質工学研究系）
「4本鎖RNAによるコロナウイルスの電気化学検出」（ライフサイエンス）

美藤 正樹 教授
（大学院工学研究院基礎科学研究系）
「高温超伝導体の製造方法」（マテリアル・リサイクル）

安藤 義人 准教授
（大学院生命体工学研究科生体機能応用工学専攻）
「地域課題の解決に向けた木質バイオマスの循環利用」（カーボンニュートラル）

佐竹 昭泰 助教
（大学院工学研究院電気電子工学研究系）
「地理情報システムを活用した電力市場価格の高精度予測」（カーボンニュートラル）

長谷川 一徳 准教授
（大学院工学研究院電気電子工学研究系）
「再生可能エネルギー用インバータの低コスト寿命診断技術」（カーボンニュートラル）

米澤 恵一朗 上席高度専門職員
（先端研究・社会連携本部 産学イノベーションセンター）
「ERSaver：インバータエアコンによるリアルタイム電力需要調整システム」（カーボンニュートラル）

※職名は出展当時

2022年度JST新技術説明会

2022/12/15※オンライン開催

2022年12月15日、国立研究開発法人科学技術振興機構主催の九州工業大学新技術説明会を開催しました。2022年度は、2021年度に引き続き、Web上でのOnline開催で行われました。新技術説明会は、発明者が企業関係者を対象に実用化を展望した自身の技術を紹介、マッチングの機会として行われるもので、今回8名の教員がエントリーしました。

▲ 詳細はこちらをご覧ください

本学から8名の先生が出展しました

孫 勇 教授
（大学院工学研究院物質工学研究系）
「負性容量デバイス」

陸 慧敏 准教授
（大学院工学研究院機械知能工学研究系）
「調整レスな産業用ロボットの自動化のための3次元認識技術」

鈴木 恵友 教授
（大学院情報工学研究院知的システム工学研究系）
「浮上工具を用いた中空加工技術に開発～工具干渉低減に向けて～」

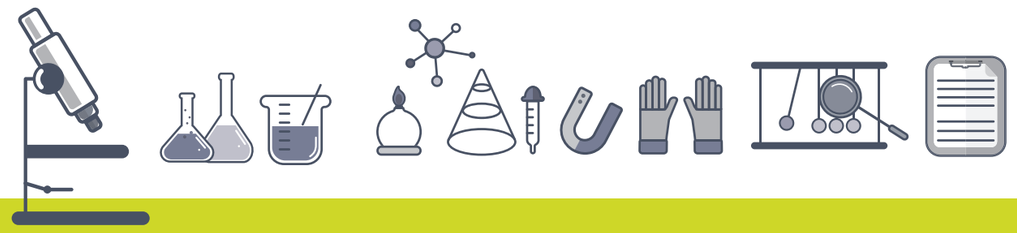
田中 悠一朗 助教
（ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター）
「レザバーコンピューティングベースのエッジ指向型画像認識」

徳永 旭将 准教授
（大学院情報工学研究院知能情報工学研究系）
「サーマルカメラからのバイタルサインモニタリング技術」

パンディ シャム スディル 教授
（大学院生命体工学研究科生体機能応用工学専攻）
「世界初の高機能性スクアリリウム色素のセンシング分野への応用」

宇佐美 雄生 助教
（大学院生命体工学研究科人間知能システム工学専攻）
「生体皮膚応用を志向した重量及び位置を区別できる柔軟な圧抵抗センサ」

米澤 恵一朗 上席高度専門職員
（先端研究・社会連携本部 産学イノベーションセンター）
「ERSaver：インバータ機器によるリアルタイム電力需要調整システム」



Support 大学発ベンチャー支援

本学発のベンチャー企業

43社

全国の大学で **21位**

本学発のベンチャー企業は43社（経済産業省「令和４年度大学発ベンチャー実態等調査」（令和5年6月）を数え、全国の大学で21位に位置しています。

産学イノベーションセンターでは、本学の教員や学生による起業など新事業の創造に向けた取り組みを支援するべく、外部資金の獲得や大学発ベンチャーの広報支援等を行っています。

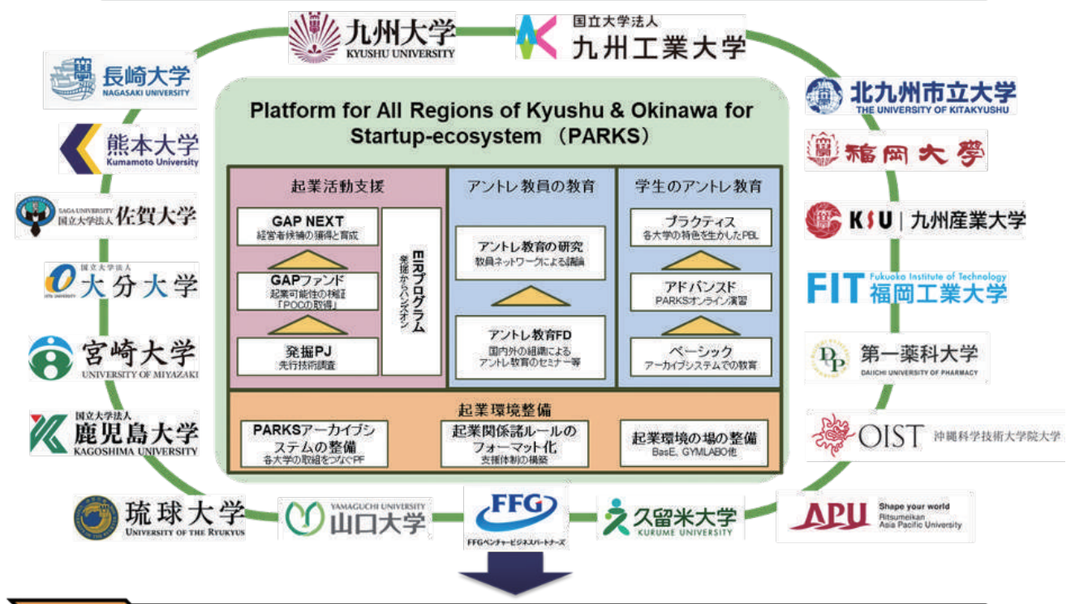
「PARKS（パークス）」を主幹機関として運営しています

2022年5月、JST事業の「大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援」に、「オール九州スタートアップエコシステムプラットフォーム（以下、PARKS）」が採択されました。

PARKSは、オール九州・沖縄圏が一体となり、アジアと繋がるスタートアップエコシステムの創出を目指すプラットフォームで、拠点都市である福岡市、北九州市、及び九州・大学発ベンチャー振興会議と密に連携し、アントレプレナーシップ教育から起業支援まで、一気通貫で実施します。2023年度からは新たに３大学が加わり、１９機関で構成されています。

PARKS
Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem

ビジョン
1. 運営機関が中心となり、PARKSインターユニバーシティを設立。独自のVCやPOCファンド運用を目指す。
2. アジアと連携し、世界で活躍できる大学発スタートアップの創出。



目標
1.令和8年度末までにPARKSから155社の起業を目指す。
2.令和8年度末には12,000人/年のアントレプレナーシップカリキュラムの受講者数を目指す。

「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択されました！

2023年4月、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業に採択されました。

本事業は、地域中核・特色ある研究大学に対し、強みや特色ある研究、社会実装の拠点等を核とした研究力の向上戦略の実行に必要となる施設整備を支援する事業です。

九州工業大学は、強みである「ロボット技術」、「情報通信技術」、「省エネ化技術」を核に、アカデミアから生み出される成果を戦略的に掛け算していくことで、地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーション創出が可能な世界を代表する研究大学となるべく、機能強化を進めていきます。

新設する実証センターを含めた3つの施設が連動することで、イノベーションの連続創出を可能にする

本学発ベンチャー企業が設立されました

株式会社TriOrb（トライオーブ）は、（国研）科学技術振興機構 大学発新産業創出プログラム（START：九州工業大学/産業技術総合研究所）により2023年2月に創出された九州工業大学発の協調移動ロボットベンチャーです。

九州工業大学からの技術移転をコア技術としたハードウェアに加え、移動を支えるソフトウェア群、運用を想定した安全方策までワンストップで提供する企業です。

3つの球体と3つのモータのシンプルな構成で全方向に自由自在に移動できるTriOrb BASEは従来の全方向移動機構に比べコンパクトさを有しながら高い走破性や移動性能を持つため、建設現場などの荒れた床面や狭い場所での活用、精緻な移動が必要な場面での活躍が期待されています。

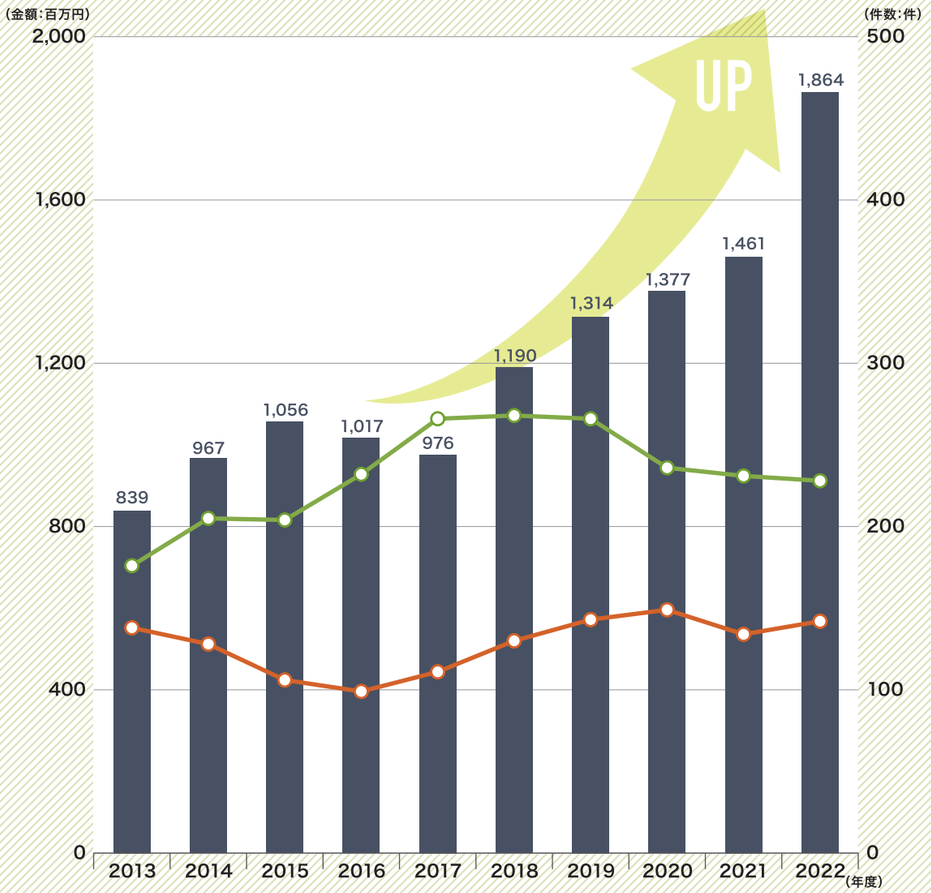
株式会社TriOrb https://www.triorb.co.jp/

06 九州工業大学の産学連携実績

産学連携による研究は年々増加

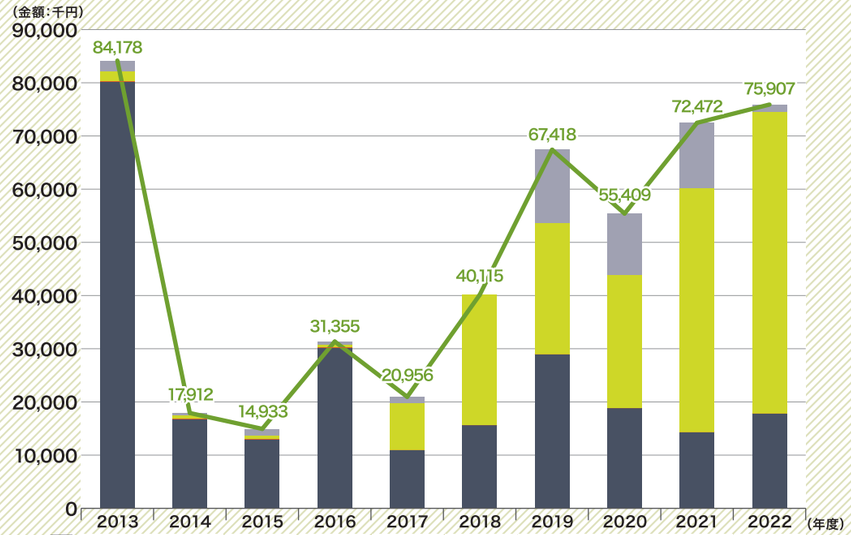
九州工業大学の共同研究・受託研究は近年、増加傾向であり、民間企業との共同研究に伴う研究者1人当たりの研究費受入額（2021年度）は、国内第8位で国内有数です。
今後もさらに産学連携を推進していきます。

共同研究・受託研究契約実績の推移



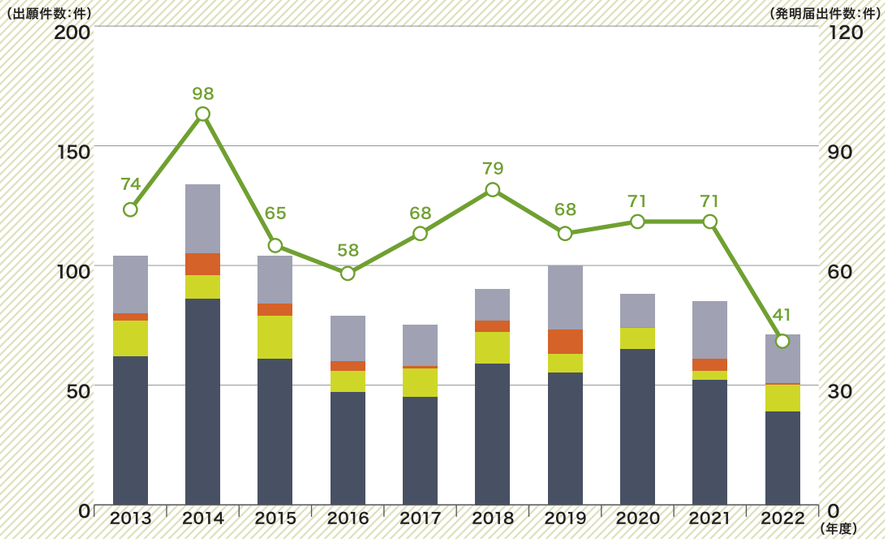
	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
受入合計金額	839	967	1,056	1,017	976	1,190	1,314	1,377	1,461	1,864	（百万円）
共同研究件数	176	205	204	232	266	268	266	236	231	228	（件）
受託研究件数	138	128	106	99	111	130	143	149	134	142	（件）

技術料等収入の推移



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
研究成果譲渡対価	2,111	500	1,360	600	1,260	0	13,810	11,550	12,400	1,410
コンサルタント・学術指導	1,788	540	540	540	8,755	24,559	24,669	25,040	45,755	56,690
外部TLO	25	57	58	35	0	0	0	0	0	0
大学実施料	80,254	16,815	12,975	30,180	10,941	15,556	28,939	18,819	14,317	17,807
計	84,178	17,912	14,933	31,355	20,956	40,115	67,418	55,409	72,472	75,907

発明の届出と特許出願料の推移



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
各国出願	24	29	20	19	17	13	27	14	24	20
EPC出願	3	9	5	4	1	5	10	0	5	1
PCT出願	15	10	18	9	12	13	8	9	4	11
国内出願	62	86	61	47	45	59	55	65	52	39
発明届出件数	74	98	65	58	68	79	68	71	71	41

07 九州工業大学 装置等の利用案内

学外の方も利用できます！

本学が保有している大型装置、分析機器、測定機器等について、学外の方も利用できます。
問い合わせ先、申し込み、使用料金等の詳細は次のURLを参照ください。

測定依頼の受け入れと装置一覧

https://www.kyutech.ac.jp/research/request.html

右のQRコードからもアクセスできます。

機器分析センター　戸畑キャンパス

各種の高性能大型分析装置等により、
分析・測定及び解析等が行えます。

https://www.kitcia.kyutech.ac.jp/

マイクロ化 総合技術センター　飯塚キャンパス

集積回路や半導体デバイスの設計・
製造、超過・観測が行えます。

https://www.cms.kyutech.ac.jp/

革新的宇宙利用 実証ラボラトリー　戸畑キャンパス

超小型衛星の開発に必要な振動実験、
熱真空実験、熱衝撃実験など様々な環
境実験、測定及び解析が行えます。

https://kyutech-laseine.net/

機器学外者利用（各センター設置機器以外）

その他の貸し出し機器リスト、
利用要項、申込書など

https://bap.jimu.kyutech.ac.jp/publishes/10/index/

Kyutech Research

スマートライフケア共創工房　若松キャンパス

介護ロボットの研究開発における様々な
計測・評価を行います。また「すぐ創る課」
が皆様のニーズをお聞きします。

https://slc3lab.jp/

詳細は こちらの HPへ

次世代パワーエレクトロニクス研究センター　若松キャンパス

パワー半導体を中心とした様々な
測定・分析及び試験が行えます。

http://power.kyutech.ac.jp/facilities.html

詳細は こちらの HPへ